

平成23年度第4回流山市生涯学習審議会会議録（要旨）

1 日時

平成24年3月12日（月）14時00分～16時05分

2 場所

市役所 3階 庁議室

3 議事

- (1) 「次世代を担う青少年を育てる地域環境づくり」（流山市生涯学習推進基本構想第2節）の具現化について
- (2) 図書館資料の収集について
- (3) 平成24年度生涯学習部主要事業の概要について
- (4) その他
 - ・ 体育館建替え事業（市民総合体育館）の概要について
 - ・ 地域の人材登録及び活用の規則について

4 出席委員

小林委員	佐々木委員	生天目委員	岡林委員	濱田委員
川上委員	山口委員	辻野委員	山中委員	丹野委員
石川委員	宮本委員			

5 欠席委員

大橋委員

6 事務局

友金生涯学習部長	直井生涯学習部次長兼生涯学習課長
戸部公民館長	鈴木図書・博物館長
須田図書・博物館次長	増田生涯学習課長補佐
渋谷生涯学習課長補佐	菊本係長

7 傍聴者

なし

8 会議録

14：00 資料確認

（小林議長）

議題に入る前に、前回の青少年育成活動に関するアンケート結果に至

る経緯の板書の修正と再確認。

本日の議題である、前回「青少年育成活動に関するアンケート」に対する議論で出た意見等をまとめた「青少年育成活動に関するアンケートに対する意見・提案」の表について説明。

(宮本委員)

解決策の所に学校の空き教室利用を何処かに入れてはどうか。

(小林議長)

事務局の方で考えてください。

(石川委員)

2番目の団体間の連携による相乗効果に私の意見が有るが、私は、1番目の活動に子どもが集まらない、運営側に人が集まらない事に対して、運営のスタイルや運営の主体を考えつつ、「行政は各団体に応じたサポートとかアドバイスを与えるのが良い。」との意見を述べた。

(小林議長)

ポジションが違っていたので、事務局で直して欲しい。

(丹野委員)

私の意見は少し違う、「教育委員会では、学校開放など個々の指導者の言動を把握していないので、指導者の育成が大事。」の様にしたい。

(小林議長)

事務局で訂正してください。

次に、解決策と役割分担について、事務局の説明を願いたい。

(事務局)

解決策と役割分担について、説明。

(小林議長)

大きくまとめると、団体運営に関連する問題、指導者の問題、安全の問題の3つにまとめる事が出来る。

実際に役割分担のところ、行政側から見てある程度実行容易なもの、実行して行く上でこの審議会を含めて、外部のバックアップが必要かの分類が出来るのではないかと思う。

(事務局)

特に役割分担のところ、異なる団体の連携会議に集まる中で共通の団体の悩みに対し、一同に解決出来るような講座、研修会等を考えて行きたい。

(小林議長)

前回の板書の構図を頭に置きながら、この問題の解決策、役割分担等々について、委員の皆さんがどう考えているかご意見を頂きたい。

(宮本委員)

後継者不足は、60歳、70歳代の方々に声をかけて、ボランティアとして参加して頂いてはどうか。

(小林議長)

これについては後で出て来ますが、行政側もそのような動きをしているところですね。

(辻野委員)

いろいろな委員会で共通の悩みや問題を抱えている。その委員会が一同に集まって話すのは難しいと思うので、各委員会の議事録を回し合いクロスの情報交換が必要ではないか。

(小林議長)

各団体の議事録、活動の情報はクロスに流れているか。

(事務局)

なかなかそこまでクロスに流れていない。

市の会議の議事録は出ているが、補助金交付団体等は独立しているので、なかなか情報は出てこない。

(小林議長)

それをやるとすれば、青少年育成会議がその役割になるのですか。

(事務局)

横の連携で言えばそうです。

(濱田委員)

新住民の方の子どもさんが何かしたい場合、どんな団体があり、どのような活動をしているか、一覧になっている情報物があるのか。

(事務局)

定期的なもので、まなびピアの冊子及びホームページ、また、各団体で独自のチラシを適宜に配布し、その情報を市に依頼すれば、市のイベントフィーバーのホームページに掲載する事が出来る。

(石川委員)

まなびピアのホームページを検索しようとしたが、幾つものアイコンをクリックしてやっと辿り着くので、子どもを持つ方々が、ホームページから簡単に検索出来るような構成であれば活用しやすいと思う。

(山中委員)

子ども家庭部で、スポーツ団体や子育ての情報をまとめた冊子が作られ、ホームページにも載りましたが、求める情報に辿りつくのに大変であること、せっかく作った冊子も窓口に行かなければ入手が難しい。

(山口委員)

公民館の講座カレンダーのように見易く、わかり易い物が、他の活動にも有れば、パソコンが上手く使えない人には紙ベースの情報が大変便利。

後継者不足のところでは、指導者が欲しいのか、事務スタッフが欲し

いのか、事業を手伝うスタッフが欲しいのか、情報交換の中で何を求めているかわかると良いと思う。

(岡林委員)

スポーツや科学の専門家の指導を受ける事は、技術向上は勿論、生活態度の改善も図られる。

実践的研修は、多くのことを学ぶことが出来、教員、生徒の実効性も高まる。

3. 1. 1以降、学校、団体、自治会との関わりが一段と必要となったことで、出来るだけ多くの機会を作り、地域とのコミュニケーションを深めて行くことが学校や団体、地域間の不安も軽減されて関わって行くことが出来ると思う。

(生天目委員)

青少年健全育成団体に加入しているような地域の団体等に参加している子ども達は、他市に比べてその数値は高いと思う。

今、土日休みで無い親も多いため、子ども達だけで過ごす家庭が増え、子どもだけで青少年育成団体に行かせられない、また、子どもを青少年育成団体に任せきりにすると言う問題があるので、考えていく必要がある。

スポーツ基本法の中で、競技スポーツと地域スポーツに分けて考えるべきだと思う。

競技スポーツは、我々が関わりにくい塾のような感じがする。

地域スポーツは、スポーツを楽しんだり、スポーツを通して保護者を育てたり、保護者の関係を広げたり我々に密着しているところに価値があると思う。

(佐々木副議長)

各種団体に抱えている悩みが出されている。指導者については、60代の人に頼りながら後継者を育てる方法も学んでもらう。また、子どもを集めるためのPRの方法なども専門の方のアドバイスを受けながら、何かを打開して行く突破口があれば良いのではと悩む。

(小林議長)

行政部門からエンドユーザーにアプローチするには、1つは市が持っている広報能力であるネット、冊子、パンフレットを介してアプローチする。

もう一つは各種団体を通してユーザーにアプローチする。

そのまとめを青少年育成会議が勉強し、後継者の問題、情報の交流、研修の問題などを協議して行く必要が有るのではないか。

学校と社会教育の観点では、学校が要求している外部の専門家とのコミュニケーションを図ることは先生にも良い研修になる。

青少年育成会議について何か有りますか。

(事務局)

青少年育成会議は、27団体の構成で青少年に直接関わっているのが約10団体、間接的に関わっているのが残りの団体です。

大きな目的は、青少年を様々な角度から支援して行こうと言うのが共通目的です。

アンケート結果から課題が見えているので、解決に向けて団体間で課題を協議して行くことは良いのではないかと思う。

(生天目委員)

学校にスポーツ団体の勧誘のチラシの配布依頼があっても、健全な団体か営利目的なのか判断に困る。

(事務局)

チラシ、パンフレットについては、団体が市の後援を取っていれば学校の方でも容認出来ると思います。

(小林議長)

この審議会の結論として、1つ目には、市が発信している情報をユーザーフレンドリーにして欲しい。その時に情報をクロスにしてわかりやすく作って欲しい。

2つ目は、青少年育成会議はそれぞれの団体の意見を聴き、団体、グ

ループが何を必要としているのか、イニシアティブをとって動いて欲しい。

学校との接点においては、いろいろな専門家を市民の方が用意し、学校とコンタクトを取って行けば良いのではないか。

また、各種団体のチラシの配布については、教育委員会の後援をとって学校と接点を持つようにすると良い。

次に、図書館資料の収集についてお願いします。

(事務局)

図書館資料収集方針について、ミニ検討会での意見について説明。
各資料の説明

(小林議長)

審議会として、最初のページのまとめで大体良いと言うことで議論して頂きました。

千葉県内の図書館では、蔵書の収納が満杯状態で、予算が有るからと言って増やせる状況ではないようです。

図書の利用状態に合っているのか、今の収集方針でいけるとしたら、高度の専門書はどうするのかについては、資料でも分かるように近隣大学の市民の利用が進んでいるので、最初の文言で良いと言うことで原案が作られています。

(丹野委員)

市立図書館と言うのは、県立図書館を補完するものではないと思う。むしろ市立図書館に県立図書館が協力することだろうと思います。補完は図書館の世界では異論のある言葉です。

最初の文言は、「市民レベルの図書館サービスに答えるため設置する」だけで良いのではないか。

(小林議長)

最初に謳わなくても良いと言うことですね。

県立図書館は、千葉県内の歴史のデータ収集や市町村で対応出来ないものについては、県立図書館で対応して行くと読めると思う。

(丹野委員)

市民レベルの図書館ニーズと参考調査のような県立レベルの役割分担が有るので、参考調査で不足するものは、県立が市町村を補完すると考えるべきだと思う。

(辻野委員)

これはこだわりの問題で、相互補完はいずれにしてもするので、どれを先に持ってくるかの違いだと思う。

(丹野委員)

図書館職員のプライドとしては、「市町村の図書館は市民に応えてる。参考調査資料で足りないところは県立図書館が協力事業で対応している。」今の状態はそうだと思う。

(石川委員)

市の図書館では、学校の要望に対しての資料選定や児童の図書委員としてのアドバイスをしている。

学校の図書部会が必ずしも専門の先生が入っているとは限らないので、学校図書館と市図書館の連携が出来ていないと思う。

学校の図書購入にあつたては、市図書館が関わることで、学校図書館と市図書館の連携を図ることが出来るので良いと思う。

(事務局)

今もやっていますが、学校との連携強化に努めたい。

(小林議長)

バックグラウンドで考えると、木の図書館の様に指定管理で図書館を管理していくので、職員はどのような役割になるのか、若い職員がいないことから、今までのような活動が出来るのか問題である。

もう一つのバックグラウンドは、どういう本が読まれているのか。

一般市民の読む本と子どもが読む本では違いが有る。子どもの読む本は10年前のベストセラーが今でも大変良く読まれていることもあって、児童、生徒のサービスに資する

この問題は、本の収集から出た事で、収集方針が違っている事がバックグラウンドにあった訳です。

(石川委員)

市図書館は児童図書についてもいろいろ把握されている。

市図書館と学校図書館が上手く連携することで、市図書館司書の知識が学校の図書室や先生に伝わると思う。

(小林議長)

鈴木館長の方で活動に対する指針としてお願いします。

丹野委員の意見ですが、どうしますか。

(事務局)

最初のところを削除して、文言については検討して訂正したいと思います。

(佐々木副議長)

本の購入については、ブックオフは現金払いのため市の伝票支払に適さないので利用出来ない。

(小林議長)

逆にいえば新書が入ってくるということですね。

次に、24年度主要事業についてお願いします。

(事務局)

担当各課で説明。

(辻野委員)

放射性物質という表現は、他課から出ている放射線量との整合性を取らないと、こんな安い見積では放射性物質は測定出来ないと思う。

(佐々木副議長)

2, 3年前に体育館新設で、太陽光発電を使ったらどうかと言うことが出ていましたが。

(事務局)

一部太陽光発電にするため、建物の構造との関係で使う面積を検討している。

(事務局)

人材登録について説明

(川上委員)

個人での申請ですか、団体でも申請出来ますか。

(事務局)

基本的な登録は個人登録を対象としていますが、団体の場合は個々に申請して下さい。

(川上委員)

団体等にも説明会をやって頂くともっと広がると思います。

(濱田委員)

サテライトセンターの講師をお願い出来ますか。

(事務局)

どの方にもお願い出来ると思います。

(小林議長)

リクルーターとしてこの計画に参加出来るのが狙いですね。

(山中委員)

講師の事業に対して参加者の感想、評価を書き込む掲示板のようなものを取り入れると良いと思う。

(小林議長)

今年度の審議会はこれが最終回です。来年度のテーマについては事務局と協議して方針が出ましたらお知らせします。

ありがとうございました。

16 : 05 終了